「新しい長野県史」と図書館の役割を考える

長野県史編さん準備会構成員（総括）・筑波大学名誉教授　伊藤純郎

１「新しい長野県史」の編さん
２．長野県の図書館の特徴
　ー地域を結び、人びとをつなぎ、文化を伝える知的空間ー
３．叙述対象としての図書館での学び
　ー読む、書く、話し合う、実践するー
４．図書館との協働による「新しい長野県史」の編さん

1.「新しい長野県史」の編さん

(1)県史の特徴･･･地域社会と県民の生活経験から長野県現代史を捉え直す。

①長野県民の多様な歩みと生活経験を、県民にとって同時代史、自分史と重なる「戦後史」「現代史」に焦点をあて、女性・ジェンダーの視点を重視しつつ叙述する。

➡長野県や県内の「暮らしの場」は、どのように変貌したのか。

➡県民一人ひとりは、「戦後」をどのように生きてきたのか。

②資料の調査・収集→県史→資料の保存・活用の流れの中で「新しい長野県史」を編さんする。

➡記録・オーラルなど多種多様な資料の調査・収集を、市町村、資料保存機関(文書館・博物館・図書館)、地域史研究団体等と連携して行う。

➡収集した資料は、デジタル技術を活用して保存し、文書保存機関の整備に努める。

③県民に問いかけ、県民から学ぶ、県民参加型の新しい長野県史とする。

➡県民との「対話」を通して県民の記憶・語りに耳を傾け、県民との「交流」によって情報を共有し、県民の歩みが追体験できる県史とする。

➡歴史研究、資料の保存・活用を担う次世代の人材を育成する。

（2）県史編集の基本方針

①【政治】 県政（知事）と地方自治（市町村政）の歩みを、国政（選挙）、分県問題・越境合併、議会、県財政、地方首長など関連させて考察し、「長野県政の特色」を叙述する。

②【経済】 産業・交通・生業の変化、開発・人口・人の移動にともなう地域社会の変化を、農山業（農山村）と工業化（都市）との関連に留意し、マクロ・セミマクロ・ミクロの視点から描く。

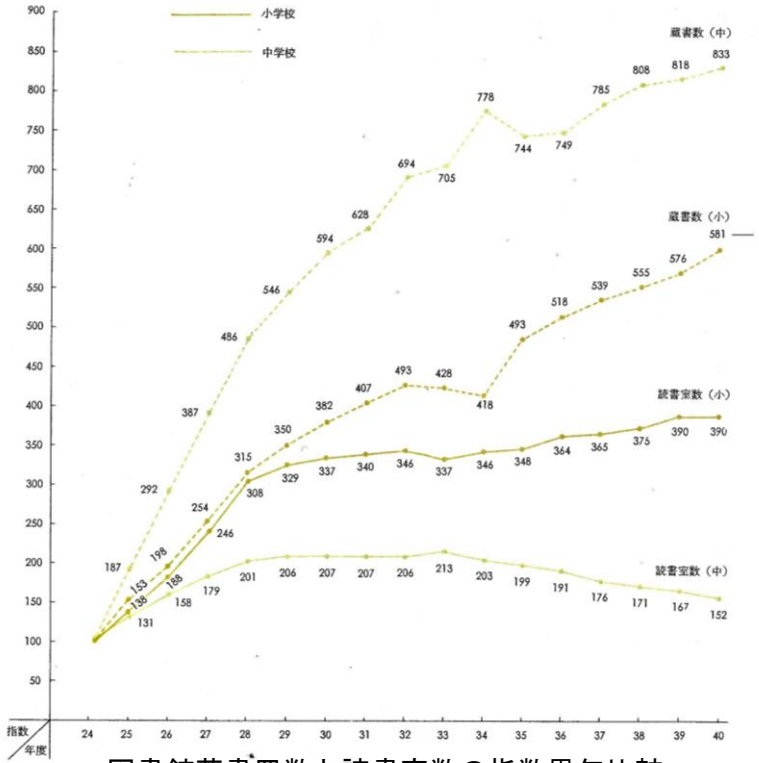
③【社会】 人の移動（移民）、男女青年団運動、社会・住民運動、農民運動、労働運動、農村医療、同和・人権、女性、メディアをめぐる県民の思想と運動（行動）を、全国的な動向をふまえつつ県民の視点から描く。

④【教育】 学校・公民館・サークルなど様々な学びの場と、文化・芸術・スポーツの視点から、戦後の教育の変遷を描き、「信州教育の特色」を叙述する。

⑤【生活】 生活文化の変遷を、「大きな流れ」と「小さな流れ」で捉え、生活の場の変容と家族（イエ）関係の多様化、民俗変化と再生、信仰・宗教などに対する意識の変化を地域から具体的に描く。

2. 長野県図書館の特徴―地域を結び、人びとをつなぎ、文化を伝える知的空間―

(1)学校図書館と公民館図書館



図書館蔵書冊数と読書室数の指数累年比較
(昭和24年度を100とする。32年度以降は分校を含まない)
『昭和41年度 長野県学事統計』信濃教育会

郡市別圖書

郡市別	人口	自治体数 市	町	村	計	圖書館のある自治体数 市	町	村	計	圖書館のない自治体数 市	町	村	計	藏書千冊以上の圖書館數	專任館員の圖書館數	專任職員數	圖書館費計	藏書數計	圖書館のある自治体一館當の自人口	圖書館費	圖書館の自治體一人當藏書數	公民館數	公民館圖書館のある數	專任職員のいる公民館數
長野縣																								
南佐久郡	95,058		3	20	23			1	1	3	19	22		1	1	1	15,200	8,000	6	4.00	23	5	3
北佐久郡	131,237		3	24	27	1		3	4	2	21	23		2	2	3	316,150	16,200	16	0.60	27	8	1
小縣郡	147,430		3	29	32	2		13	15	1	16	17		4			95,200	20,000	30	0.70	32	19	2
諏訪郡	109,783		2	18	20			6	6	2	12	14		5	4	11	186,000	6,700	50	0.50	20	2	8
上伊那郡	184,154		5	25	30	2		7	9	3	18	21		7	7	10	893,000	29,400	120	0.40	31	8	4
下伊那郡	181,154			42	42			12	12		20	20		7	7	31	357,600	5,200	110	0.10	42	10	1
西筑摩郡	65,167		2	13	15	1		2	3		12	12		1	2	2	40,000	2,000	40	0.50	15	7	2
東筑摩郡	167,028		1	35	36			5	5	1	30	31		3	1	1	277,000	13,300	140	0.80	36	12	1
南安曇郡	80,195		2	14	16			2	2	2	12	14		2	3	3	90,000	5,500	80	0.17	16	12	1
北安曇郡	78,042		2	15	17	1		1	2	1	14	15		1	1	1	191,600	5,300	90	0.26	17	4	1
更級郡	103,427		3	22	25	1		2	3	2	20	22		2	1	2	134,000	23,700	101	1.60	25	7	
埴科郡	69,628		5	12	17	1		2	3	4	10	14		1			152,600	1,200	70	0.40	17	4	
上高井郡	75,441		1	13	14	1		2	3		11	11		2	2	3	336,853	11,500	100	0.37	14	6	1
下高井郡	86,442		1	19	20			3	3	1	16	17		1			19,000	6,100	30	0.90	20	10	1
上水內郡	128,310			29	29			4	4		25	25		3			167,760	8,500	110	0.56	29	4	
下水內郡	43,380		1	9	10	1		1	2		8	8		5			26,000	4,100	22	0.00	10	3	
市	352,827	6			6	5			5	1			1	5	5	27	5,092,684	139,100	70	0.60	6		
計	2,098,700	6	34	339	379	5	11	66	82	123	263	287	52	36	95	8,390,647	305,800			380	112	24		

郡市別図書館普及状況（昭和25年度）
『長野県図書館協会々報』第１号（１９５１年６月）』

（2）図書館普及運動

目的　文化向上の母体としての図書館の認識を県内に高める

実施方法　①ポスター図案を募集、県内配付

②長野県図書館大会を開催、研究協議

③市町村の公共図書館、学校図書館で、講演会

研究会、講習会、展示会、童話会、映画会

第1回　　昭和24年11月1日～30日



第２回図書館普及運動ポスター
（信毎ペンの庫資料 長野市公文書館蔵）

（3）長野県図書館大会―「歴史の第一頁開かる」（第一回大会）

第1回昭和26年11月10日・11日　上田市上小教育会館、郡市支部11、300人参加

主催　長野県教育委員会、長野県図書館協会（昭和25年結成）、信濃教育会

①公共図書館部会…町村図書館のあり方（公民館長・図書館長兼任）、専門職員、労働文庫

②大学図書館部会…公共図書館・図書館との相互連絡、「信州学術文庫」

③高等学校図書館部会…良書の推薦・展示、県費図書、図書館実務講習会、図書館教育

④中学校図書館部会…「中学校に於ける読書指導の方策」、教科教育と図書館

⑤小学校図書館部会…「どんな本を揃えるのか」（図書の選定）、図書の活用、目録カード

全体協議…司書資格取得〈県内、通信教育）、「良書の紹介、展示」（県指導課専任主事）

（『長野県図書館協会々報』第2号（1952年2月、編集兼発行人　叶沢清介）

３．叙述対象としての図書館での学び―読む、書く、話し合う、実践する―

（１）PTA母親文庫　　県立図書館長（昭和２４年９月）叶沢清介の読書普及運動

①信大教育学部附属長野小PTA「母親も本を読もう」 昭和25年、4名１回１冊、一カ月貸出

②県立図書館➡月１回配本所（返送料町村負担）、町村代表者受取・図書選定➡町村

町村➡学級４人１グループ、回覧１人一週間、子ども持ち運び、「農家の軒先まで本を届ける」

③PTA（学校）➡婦人会・公民館・農協婦人部➡母親読書運動 「本を読む母親」

昭和29年　長野県図書館大会、「母親文庫部会」

④読書会➡読後感想文・文集発行（「本を読めないなげき」＝不読書の文集）➡テキスト

⑤読む（受け身）➡書く（生活を文章で表現）、話し合う機会

➡婦人文集・婦人文庫

（2）読書会運動　　松本市立図書館長（昭和27年2月）小笠原忠統、農村読書会

①「不読書層の開拓」（図書館に来ない人、来れない人、勤労青年・家庭の婦人）

（小笠原「農村に於ける読書会の運営について」『長野県図書館協会云々報』第11・12合併号、1954年12月号）

➡読書の習慣（読書と生活が遊離）・読書力の養成

②読書会指導・・・テキスト（随筆・短編・小説・新聞記事）、ガリ版刷り➡輪読➡感想・意見交換

③問題点・・・教養主義的傾向➡生活に根ざした問題、共通の課題を解決する学習の弱さ

➡系統的学習「私の大学」　／　➡生活改善運動・・話し合う、実践する

「自分達の生活に直結する問題であるだけに、討論は時間を過くるところを知らず、農村にはびこる根強い封　　建制を打ち破ろうとの逞しい意気込みが感ぜられた。特に、テキストの内容をしっかり把握し、誰の前でおじけずに自分の感えを率直に発表し合っているその態度には感銘深かった。このような読書会が重なるにつれ、これ等青年たちによって日本の農村も一歩一歩改善されて行くことを思えば微笑まずにはいられない（Y・M「生活改善へ直結した農村読書会　松筑読書会見学雑感」『長野県図書館協会々報』第10号、1953年10月）

（3）図書館での学び―読む、書く、話し合う、実践する

①集団で読む･･･母親文庫･婦人文庫･公民館

②生活を記録する･･･生活記録文集･婦人文集

③発表する、話し合う･･･読書会、県図書館大会

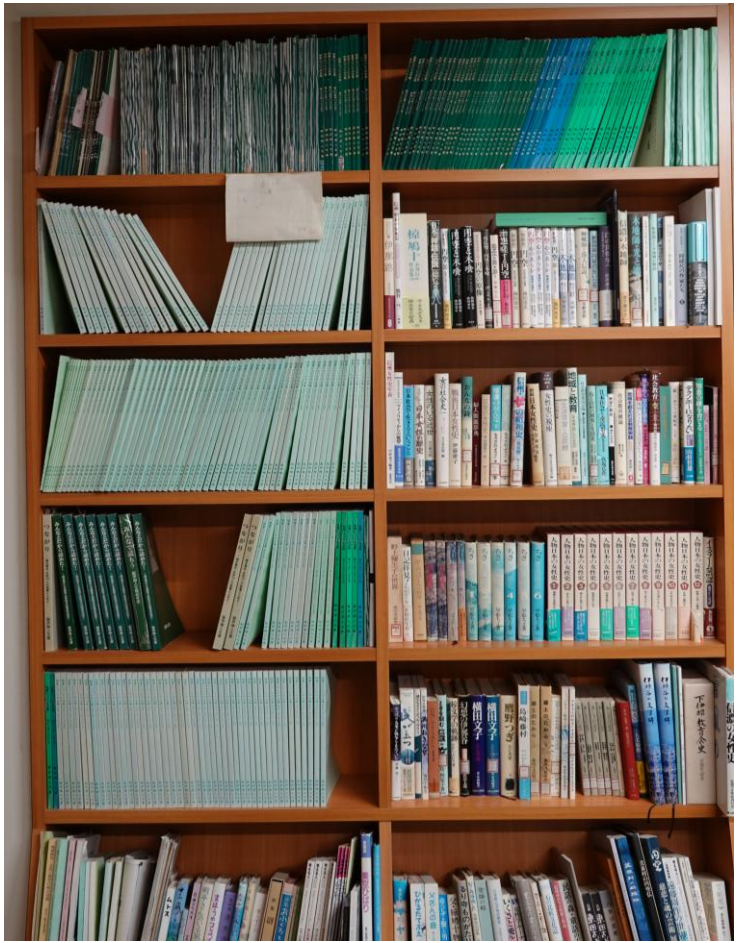
④実践する･･･生活改善、公民館活動、PTA活動

⑤女性の自立、意識変化、「信州の女性」





（いずれも飯田市立中央図書館所蔵）



飯伊婦人文庫の活動で使用されていた書棚
（飯田市立中央図書館読書会室）

４．図書館との協働による「新しい県史」の編さん

（１） 県史編さんに必要な蔵書

①図書（書籍）・報告書・・・地域出版、個人刊行物（私家版）・記念誌

②雑誌・文集…地域誌、同人誌、サーク誌、PTA・母親・婦人・労働者文集

③新聞・広報…信毎（地域版）、地域新聞、市町村報、公民館報、チラシ・ポスター、掲示物

④音声・映像・図像・・・放送（有線、ケーブルテレビ）、記録映像、インタビュー・写真、絵画

⑤地域・郷土資料・・・寄贈・寄託・未整理、自治体史編さん資料

（２） 図書館関係者へのお願い

①資料（管内外）の所蔵状況➡資料情報を提供➡資料的価値を調査➡県史編さん資料に活用

②図書館との交流を通して、知識・情報を共有し、すばらしい「長野県史」をともに創りましょう。